

火曜会通信

発行日：平成 17 年 1 月 1 日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧 1 丁目 1 番地

伊丹市教育委員会事務局内

伊丹の「財産（たから）」

柴田 博

昨年 9 月 11 日から 3 ヶ月間にわたって開催された旧岡田家住宅、酒蔵の「築 330 年記念イベント」に象徴される伊丹の文化遺産は、残念ながら全国的に認知されているとは思われない。しかし、伊丹の「たから（財産）」としての文化遺産は、「まだまだ他にたくさんありますよ」と大きく声をあげたい。

では、どのような文化遺産があるかを気のつくまま列挙してみると「酒蔵、有岡城跡、伊丹廃寺、御願塚古墳などの史跡、神社、寺院の建造物、仏像、古文書、鬼貫ほか郷土の偉人、その他の有形および無形文化財・・・等々」列挙に追が無い。伊丹は、「摂津のへそ」との通称もあるように、古代より聖徳太子、行基や菅原道真に纏わる事跡、伊丹への遷都の話題にもなった金岡の清水の痕跡等、多くの歴史的遺産がある。しかし、衆人の耳目を集め乍らも歴史の表舞台に立つことなく流れ去ったものも少なくない。激動の中世から近世にかけての伊丹は、有岡城の悲劇から幕末の血腥い時間を通り過ぎる間にも、俳諧の鬼貫や「丹醸」として名高い酒を輩出し、文化の香り高い町になっていった。「也雲軒」を初めとするサロンに文化人が集い、政治談議も大いに交わされたであろう。これらは、有岡城跡の周辺から近衛家の庇護の許に発展した酒造家たちによって醸しだされた町人の文化に他ならない。

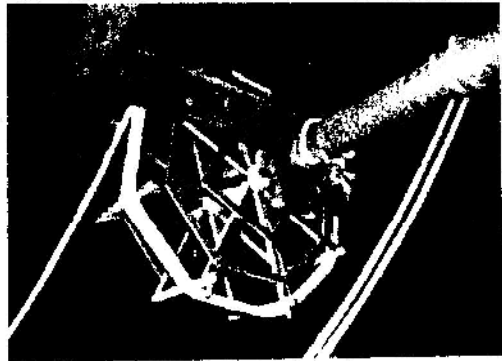
私事で恐縮ながら、この原稿を書いている最中、急病で入院する羽目になってしまった。しかし、一方では思わぬ収穫もあった。それは集中治療室から CT、MRI、心臓エコーと検査を渡り歩いていたとき、あるナースから「以前から猪名野神社には度々足を運んでいる。もっともっと伊丹の文化財に接したい」と言われた。昼夜にわたり患者さんを相手に心身とも酷使する職にあって、文化財が、ひとときの心の安らぎに役立っているとするなら、これもまた可なりである。退院時には当会の PR と感謝の意をこめて、婦長さんにガイドブック・「文化財を訪ねて」を進呈させてもらった。微力ながら一人でも多く、文化財に対する理解者を増やすべく努力したつもりである。会員の皆さんも、今までに学んだこと、新しく掘り起こしたことを自分だけのものとはせず、できるだけ多くの市民の皆さんに伊丹の「たから」を還元しようではありませんか。

 主な行事予定(1月～3月)

1月18日(火)	定例会	総合教育センター・2F 講座室
	新年会	スワンホール
1月25日(火)	屋外研修	集合：御願塚古墳 10:00
2月8日(火)	定例会	中央公民館講義室B
2月15日(火)	屋外研修	「有岡城の惣構えを歩く」 集合場所等未定
3月8日(火)	定例会	

7月27日(火)、好天続きのかんかん照りのなか、水曜日グループの主催する屋外研修「灘の酒蔵見学」に20名の会員が集まりました。

阪神淡路大震災から10年近く、すっかり整備された街並みを通り、白鶴酒造の資料館へ。冷房のきいた館内に入り、ホッと一息つき自由見学。大釜に据えられた菰を巻いた甑(こしき)に大きさを実感。二階にも酒造りの道具が名札をつけてたくさん展示されています。このなかで目を引くのは床を切り取り、宙吊りにされた大桶でした。アミダとよばれる大きなロープの巻き取り機で、二階に吊り上げられているのを目の前で見ると、さすがに迫力があります。また、手押し式の消火ポンプや消防車も展示されていて、火災に対する配慮も並々ではないことが感じとられました。



阿弥陀

次に、菊正宗酒造記念館へ。若いお嬢さんが案内してくれ、質問にもよどみなく返答。とても入社後三ヶ月とは思えない見事な説明ぶりでした。地震で全壊した建物の柱が荷重のかからない所で使われており、かつての酒蔵の雰囲気とうまく演出されています。ビデオを見る椅子にも太い柱を短く切ったものが利用されており、その上に酒袋の座布団がさりげなく敷いてあります。座ってみるとどっしりした安定感がありました。

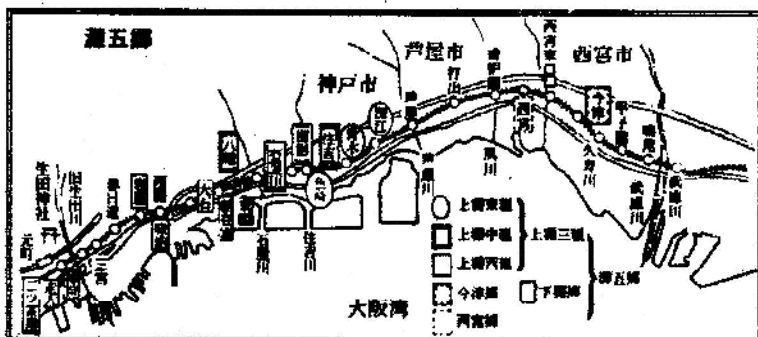
白鶴酒造では60~70名の杜氏さんがおられるとのこと。機械化・現代化された工場とはいえ、酒造には酵母・麹菌の増殖等が微妙で、今なお杜氏さんの経験・技術が必要なのでしょう。あらためて、酒造りの奥深さに触れた感がします。

展示品の中では、酒槽の内部や側面に割り竹が並べられ、搾られたお酒を流れやすくした構造になっていたのが印象に残りました。六甲おろしの寒風利用や住吉川を利用した水車精米、すぐ南の港を使つての宮水の運び込み、樽廻船への積込みなど、地の利を生かした灘五郷の繁栄の理由が現地を踏むことで実感されました。

浜福鶴銘醸では工場の二階の窓から酒造工程が見えるのですが、残念ながらこのときは機械が休止中であつたのと暑いので早々に下の売店へ。お酒を試飲し、お酒や酒かすなどを買って求める人々が見られました。

昼食は予定していたレストラン「桜宴」がお休みだったのでここで解散。それぞれ思い思いのところで昼食をとって帰宅。

灘五郷は規模が大きく見ごたえがありました。旧岡田家酒蔵の道具類の展示はほん



の一部だけなので、今ひとつ分りづらく、酒蔵の全体像を把握する意味や復習のうえからも、このような酒蔵見学をときどき催して頂ければと思います。

暑さをも思わず忘れる有意義な半日でした。

Q&Aコーナー

Q 四天王に踏み潰されている邪鬼とは何ですか？

A まず、四天王とは須弥山の四天王宮に住んでいる守護神で、須弥山を仏敵から守る天部です。そして、仏教をなかなか理解せず、ひねくれて仏教信者にならない、そんな衆生が邪鬼なのです。如来・菩薩・明王までは蓮台にのれるのですが、天部は岩座にしかのれません。(大黒天・弁財天・吉祥天を除く)天部たちは、仏界の守護神ですから本当は蓮台にのってほしいけれども硬い岩の上に立っているというので改心した邪鬼が、夜叉神となり、自分が下敷きになることで暖かい柔らかい座を差し上げたいと四天王の台座がわりになっているのです。このように、形の上では踏まれているように見えますが、実は大喜びなのです。

西村公朝 著 「優しい仏像の見方」より

<屋外研修>

呉服の里探訪記

安原雅人

雨天決行との木曜グループ酒井リーダーの連絡の徹底により、平成16年9月27日出発時には大雨であったにもかかわらず、阪急池田駅には十数人の会員が集まりました。呉服・綾服の里の探訪は呉服(くれは)神社からはじまりました。

後藤さんから「呉に乞うて呉織、綾織、兄媛、弟媛の4人を連れ帰ったが、兄媛は九州の胸形明神の望みでお留まりになり、他の媛は、摂津の武庫の浦にお着きになった」との呉服・綾服にまつわる由緒や伝説の説明がありました。これについては、伊丹市文化財ボランティアの会「村の歴史グループ」がまとめた「旧神津村の歴史と暮らし」の中の小坂(阪)田村の項が参考になります。因みに、中国の機織技術者を中国に出迎えに行った阿知使主、都賀使主親子の名前がこの村の小字に見られたようです。

また、池田は勝尾寺道、有馬道、西国街道などが走り、交通の要衝として発展してきました。そのためか、池田には今も32基もの道標があるようです。今回は、西光寺の西側にある「篠山街道」の道標と天保四年「右中山」と刻まれている二基を見ました。そして、旅人が行きかう有様を偲びました。

しばし歩くうちに呉春の蔵元の前に到着。塩井さんから池田の酒や呉春についての説明を楽しく聞かせていただきました。

あれほど激しく降っていた雨も、いつの間にかすっかり上がり、青空が見えてきました。坂道を登りきると池田城址公園です。池田市観光協会のボランティアの三人の方々が待っていて下さり、3グループに分かれて説明を受けました。城址公園の北側には小川が、東には空堀のある台地で、これらを戦略的にうまく活用していたそうです。また、池田城の域内を通る道路を遮断するなど、後日の有岡城の「惣構え」の下敷きになるところも散見されました。往時の池田城の有様は、城山勤労者センターにある模型をみると大変分りやすく、有岡城址にもこのようなものがあれば見学の方々には便利ではないかと思った次第です。午後からは伊居太神社や唐船が淵を回りました。

池田には既に3回は行ったことがあります。時には伊丹を離れて伊丹を見直すのも良いものです。帰りには名産の豆腐を土産にする会員もあり、楽しい一日を過ごしました。

見上げる空は真青に澄んで楽しい一日を予感させるようです。

初めに訪れたのは氷上町の達身寺。長い年月、暗い谷に置き去りにされてきた数多くの仏像が、今なお、その姿をとどめ、何かを主張しているように思われ、心打たれるものがありました。「これほど多くの（実際は現存するよりはるかに多くの）仏像が一つの場所に残されていることから考えてお堂を多く持った工房であったのではないか」という郷土史家の船越氏の説は肯けるものでした。一人ゆっくりと一体、一体の仏像が語りかける言葉に耳を傾けて見たい・・・そんな気持ちにさせられたひとときでした。

昼食後は青垣町の高源寺へ。お寺に続く石段や坂道を登る間も、色づきかけたカエデや、葉の間から見え隠れする三重塔や本堂の美しさに心奪われる思いでした。ご住職の法話も楽しく、また、考えさせられるものがありました。水上勉氏の言われた「ここは鬼気せまる禅機がみなぎり、身をおいただけで胆を洗われる生気があるように思える」というところまでは感じ取ることが出来ませんでした。またいつの日か、静かな雰囲気の中で、ゆっくり訪れたいお寺でした。二つのお寺ともにそれぞれすばらしく、予想を越える満足感を与えてくれました。また、帰りのバスの中では池田さんのハーモニカ、酒井さんのクイズで楽しく伊丹に帰りつくことができました。お世話くださった皆様、ありがとうございました。

主な活動の記録

月日	曜日	案内要望の代表者	人数	月日	曜日	案内要望の代表者	人数
10月1日	金	奈良女子大同窓会	20	11月3日	水	ひょうご談義	15
10月6日	水	エルダーホステル協会	20	11月5日	金	伊丹市立北中学1年生	42
10月14日	木	大阪24会	18	11月5日	金	NTT退職者の会	42
10月15日	金	大教大 付属高校父母の会	15	11月12日	金	伊丹市立北中学1年生	42
10月6日	水	駿台甲府高校・西宮	40	11月12日	金	尼崎北小学校PTA	20
10月16日	土	西宮市 野口 修	19	11月13日	土	伊丹市立池尻小学校	40
10月22日	金	伊丹市立北中学1年生	42	11月17日	水	ナインティンズ	12
10月24日	日	国際生涯学習文化センター	40	11月18日	木	大村市民の会	25
10月26日	火	海南市文化協会	60	11月23日	火	有岡城周辺自治会	200
10月26日	火	神戸市西国街道を歩く会	15	11月24日	水	伊丹市立鴻池小学校	90
10月28日	木	阪神北青少年本部	20	12月5日	日	伊丹郷町吟行会	30
10月29日	金	奈良 くちなし会	20	12月7日	火	伊丹市立神津小学校4年生	90
10月29日	金	伊丹市立伊丹小学校2年生	21	12月11日	土	詩吟クラブ	28

編集後記

昨秋から始まった「旧岡田家 築330年」の記念行事も成功裏に幕を閉じました。当会も少なからず貢献できたのではと思っています。「やれば出来る」との思いと決意で、今年もボランティア活動に邁進しましょう。